

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 第3次産業活動指数(2013年2月)

発表日2013年4月12日(金)

～2ヶ月ぶりの前月比プラス、家計部門・企業部門ともに上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 高橋 大輝
TEL : 03-5221-4524

(単位:%)

		第3次産業活動指数										
		前期比	前年比	電気・ガス・ 熱供給・水道 業	情報通信業	運輸業、郵 便業	卸売業、小 売業	金融業、保 険業	不動産業、 物品賃貸業	学術研究、 専門・技術 サービス業	宿泊業、飲 食サービス 業	生活関連 サービス業、 娯楽業
12	1-3月	0.0	2.4	3.0	▲3.0	0.7	▲1.8	▲2.4	▲0.1	4.1	▲1.0	▲0.9
	4-6月	0.0	2.2	▲4.4	2.1	▲0.4	1.2	2.6	▲0.1	1.4	▲1.1	0.0
	7-9月	0.1	0.5	▲0.5	0.3	▲0.3	▲0.4	▲0.5	0.3	▲2.3	1.6	▲0.6
	10-12月	0.5	0.8	1.8	0.4	1.3	0.3	1.9	▲0.2	▲0.1	1.1	0.6
12	1月	▲0.6	0.4	0.4	▲0.9	0.2	▲1.3	▲4.2	▲0.6	▲1.5	▲1.1	▲0.6
	2月	0.0	2.4	0.0	0.5	▲1.6	▲1.4	1.1	0.3	6.1	▲0.3	0.9
	3月	▲0.6	4.2	0.3	▲7.4	2.8	▲0.4	▲0.6	0.2	1.5	▲0.1	▲1.9
	4月	▲0.2	2.6	▲2.2	6.4	▲2.6	0.8	2.2	0.2	▲0.4	▲0.6	0.1
	5月	0.9	3.2	▲2.7	1.0	1.8	1.7	▲0.8	▲0.9	0.4	▲1.3	1.0
	6月	0.1	0.8	▲1.9	0.4	▲0.7	0.4	3.0	0.4	▲4.2	1.8	0.8
	7月	▲0.6	0.9	0.7	▲0.1	▲0.3	▲1.6	▲1.9	0.4	0.3	▲1.3	▲1.9
	8月	0.3	0.6	2.3	▲0.6	▲0.2	1.2	▲1.5	▲0.4	1.6	3.0	0.1
	9月	0.2	0.1	▲1.4	0.6	0.1	▲1.3	2.2	0.4	▲2.9	0.1	1.2
	10月	0.2	1.4	▲0.5	▲0.1	0.9	▲0.3	0.6	▲0.2	0.6	▲0.1	▲0.6
	11月	▲0.5	1.0	1.4	0.2	0.5	1.6	▲0.7	▲0.5	▲0.4	2.2	0.7
	12月	1.3	0.0	4.7	0.5	0.3	0.1	2.5	0.7	2.8	▲3.8	▲0.7
13	1月	▲1.5	0.2	▲2.5	0.5	▲1.0	▲3.6	▲1.4	▲1.0	▲7.1	▲0.2	0.1
	2月	1.1	▲1.6	1.2	0.9	▲0.2	0.9	1.9	0.3	2.0	0.7	0.9

(出所) 経済産業省「第3次産業活動指数」

○2月の第3次産業活動指数は前月比+1.1%

2月の第3次産業活動指数は前月比+1.1%と、コンセンサス(同+0.7%、レンジ:同▲0.4%~+2.9%)をやや上回る結果となった。主要13業種のうちプラスに寄与した業種は、卸売業、小売業(前月比寄与度+0.21%ポイント)、金融業、保険業(同+0.19%ポイント)、学術研究、専門・技術サービス業(同+0.11%ポイント)、情報通信業(同+0.10%ポイント)、の11業種であった。一方でマイナスに寄与した業種は、運輸業、郵便業(同▲0.02%ポイント)、学習支援業(同▲0.00%ポイント)の2業種であった。前月のマイナス分を取り戻すには至らなかったが、均してみれば緩やかな上昇基調にあり持ち直しの動きが続いていると言えるだろう。

自動車卸売業、自動車小売業ともに前月比プラスとなり、自動車販売の持ち直しが改めて確認された。また、株高の影響から金融業では金融商品取引業・商品先物取引業がこのところ好調な推移をしており、前月比+9.0%と大きな伸びを見せた。

○2月は家計部門・企業部門ともに上昇

第3次産業活動指数のうち、それぞれ家計と企業の活動に関連が深い業種を取り出してみると、家計部門¹が

¹ 映像・音声・文字情報制作業、旅客運送業、小売業、不動産取引業、住宅賃貸業、宿泊業、飲食サービス業、医療、福祉、学習支援業、生活関連サービス業、娯楽業

前月比+0.3%、企業部門²が同+1.2%となった。

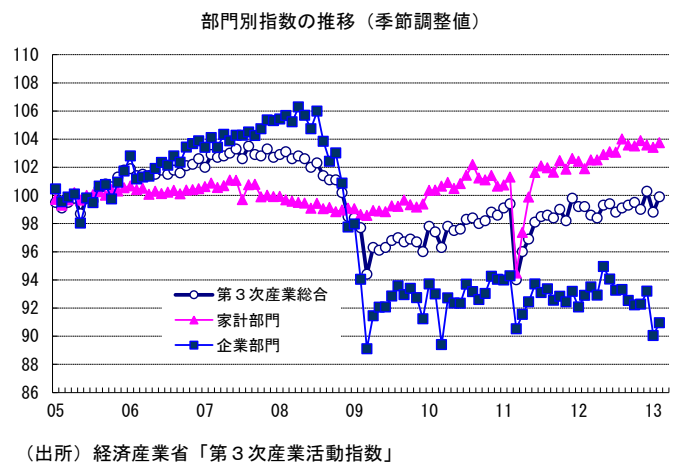
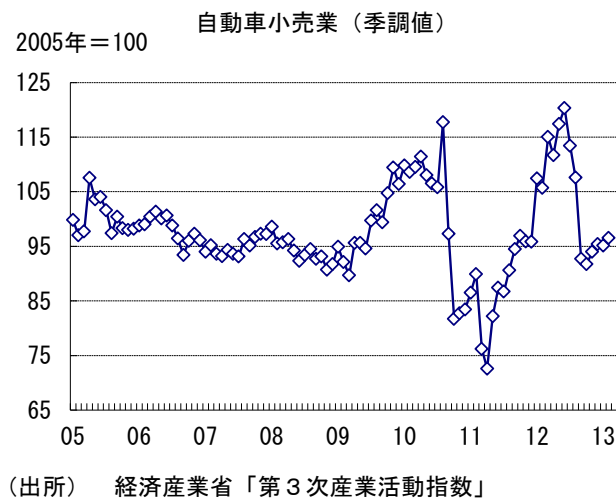
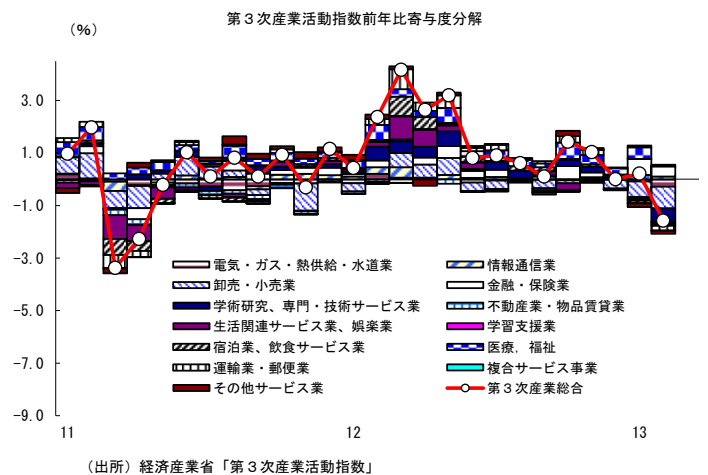
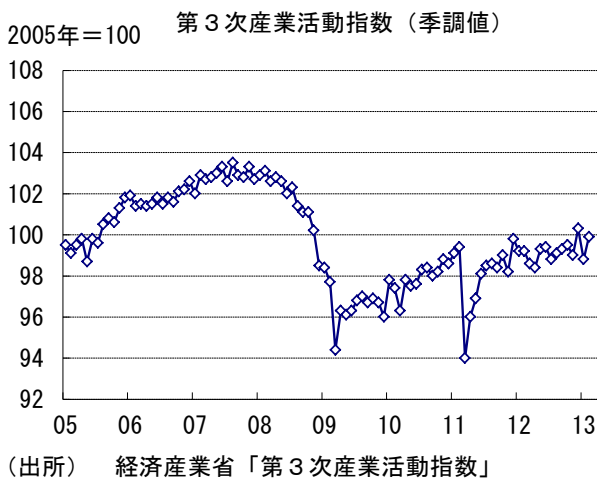
家計部門は不動産取引業（前月比+1.2%）、生活関連サービス業、娯楽業（同+0.9%）、宿泊業、飲食サービス業（同+0.7%）などが上昇した。家計部門で大きなウエイトを占める小売業は同▲0.1%となったものの、自動車小売業は同+1.5%と持ち直しの動きが続いている。総じて消費者マインドの改善と自動車販売の反動減の一巡などを背景に家計部門は引き続き底堅い推移となった。

企業部門では、卸売業（同+2.0%）が前月比プラスに大きく寄与した。エコカー補助金効果剥落の影響一巡による自動車販売の持ち直しから、自動車卸売業（同+6.0%）が前月比プラスとなった。2月は例年より気温が低く春物衣料の販売が不調だったことなどから繊維・衣服等卸売業は低下したものの、それ以外の分類は全て上昇した。

○第3次産業活動指数は緩やかに改善していくと予想

このように、生産において自動車販売の底打ちや株高による消費者マインドの改善を背景に2月の第3次産業活動指数は家計部門・企業部門ともに前月比プラスとなった。

先行きについては、企業部門では、足元で生産は底打ちしており、先行きは輸出の回復等を背景に緩慢ながらも持ち直しが期待できる。生産の持ち直しに伴って企業向けサービスも回復が予想される。家計部門は、自動車販売の持ち直しや株高を背景とした消費マインドの改善により引き続き底堅い動きとなるだろう。第3次産業活動指数は緩やかに改善していくと予想する。



² 情報サービス業、貨物運送業、倉庫業、運輸に附帯するサービス業、卸売業、貸事務所業、物品賃貸業、自動車賃貸業、学術研究、専門・技術サービス業